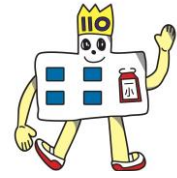




# 武蔵村山市立第一小学校 学校だより



令和6年4月30日

## 悩ましい季節

校長 押本 純樹

夏の全国高校野球大会も、今年は熱中症対策として、気温が上がる時間帯を避け、試合を午前と夕方に分けて行う2部制を開幕から3日間に限り、導入するそうです。炎天下で試合をする選手や応援する人たちの健康を考えての対策です。

外遊びが大好きな子供たちが多い本校としては、これから悩ましい季節を迎えます。雨が降れば、子供たちも校庭で遊べないことを素直に受け入れるのですが、晴れている場合は、それがなかなか理解できません。熱中症のことが周知されてきたとは言え、「このくらいは大丈夫!」という元気な声が多々聞こえてきます。適度に外遊びの時間を確保しないと、本校の子供たちには、ストレスが溜まってしまいます。

熱中症警戒アラートが発表された場合、本校では、「休み時間の外遊び及び体育の水泳指導は可とするが、校庭での体育や激しい運動が伴う活動は原則禁止とする。ただし、プールサイドで WBGT (暑さ指数) が 31 になった場合は水泳指導を中止する。」と取り決めていています。発表があった場合、一律に屋外での教育活動をいっさい中止にする学校もあると聞きますが、本校は警戒を強め、校庭で測定した WBGT を判断の参考にしています。広域的な情報の下、現場の状況を判断する方針です。

異常に暑い日は、必ずしも校庭で遊びなさいという指導はしていません。子供たちは、それなりに考えて、室内で静かに過ごしたり、日陰や木陰でうまく遊んだりしています。中には暑さに強い子もいて、気持ちよさそうに汗をかいて元気に遊んでいる子もいます。昨年度の学校保健委員会では、15分ぐらいの外遊びは、健康上大丈夫と、校医さんがおっしゃっていました。

年度当初から取り組む積極的な外遊びは、一つの熱中症対策です。この時期から徐々に体を暑さに慣れさせるのがねらいです。5月の長縄大会には、そんな意味合いもあります。そして、ひと夏を越え、さらに残暑厳しい9月の運動会練習で体を鍛え、10月の運動会でその成果を子供の姿で発表します。こまめに水分補給をさせるといった基本的な対策と共に、暑さへの耐性を鍛える根本的な対策も、心身の成長期であるがゆえに、大事だと考えています。この子供たちが大人になったときには、もっと暑い夏が待っているかもしれません。

無理をするつもりはありません。国連は、「地球の沸騰化」という表現を用いて警鐘を鳴らしています。子供たちから目を離さず、その時々の様子を見ながら判断していきます。願わくば、これ以上の暑さは、遠慮したいです。御理解、御協力をお願いいたします。



ナイスファイト!